

1人1台端末の活用による実践事例（小・中学校）

学校名	井原市立出部小学校	実践者名	谷藤 亮輔
教科等	総合的な学習の時間	学年	6年
		授業活用段階 (岡山県版)	Stage 3
育成したい 資質・能力	自分の興味関心から調べたい職業を設定し、目的に応じて手段を選択しながら情報を収集する力や取材や見学を通して得た情報から自己を見つめる力を育てる。		
単元・内容等	「ぼくの夢わたしの夢」 自分の将来について考える中で、自分のよさや強みを知り、今の自分にできることについて、自分に合った方法（スライド・ドキュメント・ポスターなど）で発表する。		
児童生徒の実態 (端末活用頻度等)	・ 総合的な学習の時間を中心に、検索や発表スライド作成等に端末を活用している。その他の授業では、意見の共有のために Jamboard を活用することが多い。 ・ 一日に一回以上授業内で活用している。 ・ 外遊びができない日などは、タブレットを取り出し、タイピング練習やタブレットドリルを行っている児童が多い。		
活用の概要（使用アプリ名を含む） ※写真も掲載する			
(1) 将来の生活を想像する ・ 将来購入したいものをワークシートにリスト化し、およその金額を調べる。 ・ 「働いてお金を稼ぐことが大切」という意識につながるようにする。 (2) 職業調べをする ・ Chromebook や学校図書館・市立図書館の本を用意し、様々な職業があることを知る。 ・ 調べた職業の情報をワークシートにまとめる。 ・ クラスルームに参考にできるウェブサイトを投稿し、選択して情報収集できるようにする。 (3) 地域の方の話を聞く活動（Ancs）→カンコー教育ソリューション研究協議会 ・ 地域の方の話を聞く活動を通して、自分の弱みを強みと考え直す「リフレーミング」を体験する。 (4) 自分のよさ・強みを共有する ・ Jamboard で、子どもたち同士で自分のよさや強みを共有する。 ・ 自分の意見と友達の意見を区別するため使用する付箋の色を分けた。黄色→自分 ピンク→友達 (5) 思考ツールを活用し、自分のよさ・強みが生かせる職業を整理する ・ Jamboard に複数の思考ツール（イメージマップ、ピラミッドチャート、フィッシュボーン図、クラゲチャートなど）を貼り付け、その中から自分に合ったものを個人で選択し、自分のよさ・強みを生かせる職業のイメージを広げる。 (6) 発表原稿の作成する 自分のよさや強みを知ったうえで、「将来の夢」や「今できること」などを、自分に合ったまとめ方（スライド・ドキュメント・ポスターなど）で発表する。			
実践者の手ごたえ		児童生徒の振り返りや反応等	
・ Jamboard を活用することで、短時間で意見を共有でき、ICT 機器を活用したコミュニケーションのしやすさを感じた。 ・ 児童も漠然とした自分の考えを整理できていた。		(児童の様子) 友達から自分のよさを伝えてもらい、「こんなにいいところがあるんだ。」と感じたり、「自分のよさについて深く考えることができた。」と振り返ったりする児童が多かった。	